中原中也賞選考委員の横顔　（五十音順）

カニエ・ナハ　<かにえ　なは>　詩人

１９８０年神奈川県生まれ。２０１０年、ユリイカの新人として詩人デビュー。２０１５年、第４回エルスール財団新人賞〈現代詩部門〉を受賞。２０１６年、詩集『用意された食卓』で第２１回中原中也賞を受賞。２０２６年、詩集『逗子』で第４回西脇順三郎賞を受賞。詩を軸に装幀、パフォーマンス、美術家とのコラボレーションなど幅広く手掛けている。その他の詩集に『オーケストラ・リハーサル』『MU』『馬引く男』『ＩＣ』『なりたての寡婦』『ＣＴ』『九月十月十一月』『メノト』『メノト ヴィネット』『ＥＮ』『ＮＮ』など。参加した展覧会に『MOTサテライト２０１７春 往来往来』（東京都現代美術館）、『さいたま国際芸術祭２０２０』（さいたま市）など。

川上　未映子　<かわかみ　みえこ>　作家・詩人

大阪府生まれ。２００８年『乳と卵』で芥川龍之介賞、０９年、詩集『先端で、さすわ ささるわ そらええわ』で中原中也賞、１０年『ヘヴン』で芸術選奨文部科学大臣新人賞および紫式部文学賞、１３年、詩集『水瓶』で高見順賞、同年『愛の夢とか』で谷崎潤一郎賞、１６年『あこがれ』で渡辺淳一文学賞、１９年『夏物語』で毎日出版文化賞を受賞。他の著書に『春のこわいもの』など。最新小説『黄色い家』は２４年、読売文学賞を受賞。『夏物語』は４０カ国以上で刊行が進み、『ヘヴン』の英訳は２２年ブッカー国際賞の最終候補に選出された。２３年には『すべて真夜中の恋人たち』が全米批評家協会賞最終候補にノミネート。

野崎　有以　<のざき　あい>　詩人

１９８５年東京都生まれ。２０１３年より詩作を始める。２０１５年、第５３回現代詩手帖賞を受賞。２０１７年、第一詩集『長崎まで』で第２２回中原中也賞を受賞。２０１８年、平成２９年度東京大学総長大賞を受賞。２０２１年、第二詩集『ソ連のおばさん』を上梓。詩作と並行しながら家政学に関する研究も行い（家政学関係では２０１４年に常見研究奨励賞を受賞。主に考現学の創始者として知られる今和次郎の家政思想や戦後の「家庭小説」についての研究を行う）、大学において家政学系の科目も担当する。恵泉女学園大学特任助教。

蜂飼　耳　<はちかい　みみ>　詩人

１９７４年神奈川県生まれ。２０００年、詩集『いまにもうるおっていく陣地』で第５回中原中也賞を受賞。２００６年、詩集『食うものは食われる夜』で第５６回芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞。２００６年、神奈川文化賞未来賞を受賞。２０１６年、詩集『顔をあらう水』で第７回鮎川信夫賞を受賞。小説『紅水晶』『転身』、文集『孔雀の羽の目がみてる』『空席日誌』『おいしそうな草』など。童話『のろのろひつじとせかせかひつじ』など。２０１２年、絵本『うきわねこ』で第５９回産経児童出版文化賞を受賞。立教大学文学部教授。

穂村　弘　<ほむら　ひろし>　歌人

１９６２年札幌生まれ。１９９０年、第一歌集『シンジケート』でデビュー。短歌をはじめとして、評論、エッセイ、絵本、翻訳などを手がける。著書に『手紙魔まみ、夏の引越し（ウサギ連れ）』『ラインマーカーズ』『世界音痴』『君がいない夜のごはん』『蛸足ノート』他。『短歌の友人』で伊藤整文学賞、『鳥肌が』で講談社エッセイ賞、『水中翼船炎上中』で若山牧水賞、石井陽子とのコラボレーション作品『「火よ、さわれるの」』でアルス・エレクトロニカ・インタラクティブ部門栄誉賞を受賞。